

責任あるAIイノベーションを加速させる 国際規格のあり方

国際標準化機構（ISO）事務総長 セルジオ・ムヒカ



AIのリスクと機会

目まぐるしい変化と相互の結びつきを特徴とする現在の社会では、新しい技術が人々の仕事や連携、情報利用のあり方を変えている。そうした技術の最たる例が人工知能（AI）だ。文章や画像の生成からお薦めの音楽や映画の紹介、科学系メディアや主要紙の見出し作成に至るまで、AIはあらゆる作業の原動力となっている。

社会や経済を根底から変える可能性を持つAIからは、技術・医療・医薬分野でのこれまでの常識を覆す進歩を含め、様々な恩恵が

員としての参画を通じて全ての関係者に開かれている。

ISOのAI専門コミュニティは60カ国からの参加を誇り、それゆえ開発される規格には幅広い視点が反映される。また、国連教育科学文化機関（ユネスコ）や経済協力開発機構（OECD）など複数の主要機関と連携しているほか、幅広いステークホルダー団体との協働機会となるワークショップも開催している。

ISOは、企業、業界、規制当局、政策担当者、国際機関、エンドユーザーとの連携を積極的に推し進め、AIが最も広範・公平かつ責任をもって活用されるための規格開発を目指している。

このためISOの幹部は、先般開催された世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で企業や国際機関を代表する著名講演者らと会談した。また、いくつかのAI関連セッションにも参加し、有益な議論を通じて洞察を深めるとともに、AIが引き起こす様々な課題への解決策として国際規格の意義を訴えた。

AIガバナンスの枠組み

AI技術の持続可能で責任ある利活用を確

期待できる。国際標準化機構（ISO）は、世界の主要標準化団体として、こうした今後のニーズに対応する適切なツールの開発体制を整えている。

ただし、AIの能力が飛躍的に高まる一方で、プライバシーや偏見、不平等、安全性、セキュリティについては強い懸念が示されている。AI技術の進歩の速度が上がり、それに後れを取るまいと規制面での努力も進む中、リスク緩和や利益最大化に役立つ国際規格は、AIシステムの開発・利用・規制の枠組みとして機能し得る。規制を支え補完するとともに、安全で責任と信頼性のあるAI開発に向

保するためには、AIのリスクがユーザーに及ぼす影響に目を向けなければならない。今ほど、AI利用の指針となる枠組みが企業に必要とされている時はない。こうしたニーズに応えるのが、世界初のAIマネジメントシステム規格であるISO/IEC 42001だ。

この革新的な規格は、AI技術のガバナンスや管理の指針となるものである。責任あるAI、説明責任、透明性、データプライバシーなどの分野を対象に、定評あるマネジメントシステムの枠組みのもと、AIの実装に伴う課題に対処する体系的なアプローチを提供している。

機会とリスクのはざまでの慎重な取り組みは、しっかりとしたガバナンスがあって初めて可能になる。だからこそ、企業経営陣はISO/IEC 42001について理解を深めることが大切である。品質分野のISO 9001、環境分野のISO 14001、情報セキュリティ分野のISO/IEC 27001などのマネジメントシステム規格に続き、ISO/IEC 42001も、世界的なAI導入の急拡大を受け、あらゆる組織の成功にとって不可欠なものとなるはずである。

ISOはさらに、国際電気標準会議（IEE

け、適切な指針を提供するためだ。

国際規格は、相互運用性、透明性、安全性に重点を置くことでAIを取り巻く共通言語となり、国、産業、ユーザーを結びつけ、信頼を醸成していく。

ISOシステムの利点

ISOの規格は、合意形成を前提とした開発プロセスがもたらす透明性と開放性を背景に、企業、産業、規制当局など世界の多様なステークホルダーのニーズを反映し、AIの様々な利用形態に対応している。ISOシステムは中立的なプラットフォームであり、会

C)と共同で、AIエコシステム全体を対象とする数々の革新的な規格も開発している。

例えば、ISO/IEC 23894はAIシステムでのリスク管理に特化した規格で、信用と信頼の構築につながる。一方、ISO/IEC 22989は、AI分野の用語を定義し概念を説明する規格である。

こうしたAI規格群は分野横断的なものであり、ISOエコシステムを構成する様々な領域に適用可能であるため、どの専門委員会でも特定セクター向けに応用できる。

AIがますます高性能になり普及が進む中、責任あるAI開発・利用を確保し、偏見やプライバシー、透明性の問題に対処することが求められている。国際規格は、これを達成する一助となり、リスクと機会のバランスを取るものとなる。前向きな姿勢でAIに取り組み、倫理やサステナビリティなどの社会的ニーズを規格開発の中心に据えれば、責任あるAIイノベーションを加速させ、この革命的な技術が持つ潜在能力を最大限引き出すことが可能となる。

（英文原文を、経団連ウェブサイトに掲載しています）